

委員会名	温泉地学研究所外部評価委員会（課題評価）
日時	平成17年12月24日（木）14時～16時30分
場所	温泉地学研究所会議室（2F）
委員	委員名および所属 岡田義光 独立行政法人防災科学技術研究所 企画部長（委員長） 江藤哲人 横浜国立大学教育人間科学部 教授 田瀬則雄 筑波大学生命科学科 教授 永井尚生 日本大学文理学部 教授
内容	<p>中期研究計画の次の課題毎に外部評価を実施した（課題番号8は委員会後の個別評価）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神奈川県西部地震の発生機構の解明（1-1 県西部地震の震源断層モデルの検証、1-2 県西部地域の地殻変動モデル構築） 2. 火山性地震の発生メカニズムの解明 3. 地球化学的手法による箱根火山活動の活発化指標に関する研究 4. 箱根地域の基盤構造および火山噴出物の研究 5. 大磯丘陵の地質に関する研究 6. 県内の大深度温泉とその帯水層の水文・地質に関する研究 7. 箱根の基盤岩中に胚胎される温泉の湧出機構について 8. 地下水流動系の把握に基づく地下水の水質形成機構の解明 <p>外部評価委員会における評価の要点（研究目標、目的についての評価。課題番号順。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「1-1」は地震データから、また「1-2」は地殻変動データから、それぞれ神奈川県西部地震の実在性を確かめ、妥当なモデルを得ることをめざしている。この目的は明確であり、県西部に立地する温地研としては取り組まざるを得ない課題であろう。 2. ルーチン業務の対象を箱根火山の浅部で発生する短周期の地震に限定せず、深部低周波地震や火山性微動にまで拡大して火山の監視を充実させるという目標は明確である。これにより、火山性地震の発生メカニズム解明により深く迫ることができるものと期待される。 3. 研究目的・目標はほぼ適切と思われるが、温泉水と火山ガスの2つの研究対象を比較すると、火山活動との関連という点、また新規の研究であり、研究手法を確立する必要があるという点から、火山ガスを主目標とした方がよいと思われる。 4. 問題意識の明確さ、研究目標の妥当性については問題ない。研究課題の性質上、独創性に特別なものはないのは、止むを得ないと思う。 5. （1）問題意識、研究目標とも問題ない。（2）目標のひとつにある「大磯丘陵の隆起陸化過程の解明」は大磯丘陵だけを隆起させるような地震（いわゆる大磯型地震）の実態を明らかにする上でも重要であると思われる。 6. （1）問題ない（研究目標、目的）。（2）大深度温泉開発は全国的な問題であり、取り組んでいる機関がほとんどないので、基礎データの収集、整理（DB化）、さらに形成メカニズムの解明、湯量の評価（法）などは緊急の課題である。目的である具体像の提示ができれば、規制、保全などに資することができると思われる。（3）研究計画は、これまでの研究の延長線上にあり、研究遂行上問題点はあまりないという印象を受けたが、もう少し目標を高く設定できるのではないかと思う。 7. （1）箱根温泉は当研究所の研究対象の1つであり、これまでの情報の整理、DB化に基づいて保全、持続的利用に向けた新たな知見の収集は不可欠である。（2）研究計画は、これまでの研究の延長線上にあり、研究遂行上問題点はあまりないという印象を受けた。 8. 研究としては、5年計画でよくできていると思われるが、裏付けとなる予算などが充分なのか気になる。2次元から3次元への拡張は、水資源、水質形成、汚染問題など、すべてで重要になるので、期待したい。保全や対策などの見方、考え方が変わる可能性も出てくるかもしれない。